

# “ちょっとだけ先輩移住者”として、 移住希望者との対話を丹念にしています

**腰本 江里沙 (こしもと えりさ) さん** 栗山町役場若者定住推進課移住コーディネーター

1978年雄武町生まれ。趣味は切手集め、寺社仏閣や美術館巡り。お笑い番組を見ながら寝落ちするのが好き。3人娘の母。移住担当の仕事のほか、ハンドメイドイベントでの布小物販売や、子どもの学校のPTA会長などの顔も。座右の銘は“できるできないではなく、やるかやらないか”

栗山町のシンボルの一つでもある小林酒造の前で

北海道に移住（U・I・Jターン）して、地域を巻き込む取り組みをする輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーのかとうけいこさん。22回目となる今回は、栗山町で移住コーディネーターとして、移住志望の方と接して4年目の腰本江里沙さんです。

**腰本さんが栗山町に辿り着くまでを教えてください**

オホーツク海沿岸の雄武町で生まれ、高校は旭川、大学は島根県、就職では初任地が鳥取県、転勤して石川県と18歳以降は日本海側を動きましたね。その後一度雄武に戻り仕事をしていました。結婚をきっかけに栗山に来たんです。移住者ではありますが、これをしたいから栗山だった…という明確な目的意識はなかつ

たです。栗山町民になったのは2007年ですね。とても暮らしやすい場所だ、子育てするならここだと感じ、2年後には家を建ててしまいました。ここいい場所だなと思って散歩コースで眺めていた土地が売りに出ていることを知り、人づてで地主さんに辿り着き売っていただいたんですよ。ラッキーでした。

**移住コーディネーターとして活動するきっかけを教えてください**

栗山町には「くりやまクリエイターズマーケット（2017年9月開設）」という、町内外のハンドメイド作家さんの出展場所兼地域の皆さんと交流できる場所があります。私はもともとそこに布もの作品を置かせてもらう出展者として携わっていました。そのうちに、マーケットを運営している役場の担当の方から「栗山

町への移住を希望している方への対応をきめ細やかにできるようなシステムを、地域おこし協力隊でも役場の職員でもない立場で作りたいと考えている」というお話を聞きました。「それ面白そうだから私がやりたいです!」と手を挙げたのが、今の仕事についたきっかけなんです。2019年から今の仕事なので5年目になります。

### 移住コーディネーターとはどういうお仕事ですか？

私は、移住希望者にとっての“第一村人”であることが大切だと思っています。栗山町は札幌からも新千歳空港からも近いのですが、まだまだ知名度は低いです。たとえば、東京で開催される移住フェアに出かけていくと、移住先として人気がある自治体に参加者は行列します。そこに並んでいる人が、待ってるついでに話を聞いてみようかなと立ち寄るのが、栗山ブースの現状です。

この町に興味を持ってくださった方には、「栗山町の腰本さんと知り合いになったから、いつか遊びに行ってみよう」とか、何年か後に本気で移住を考えたときに「栗山町には腰本さんて人がいたな。相談してみるか」と思い出してもらえる存在になることが目標です。

### 移住希望者と接していて難しいことは？

正直言ってコロナ前は、「夏の間だけ涼しいところで過ごしたいという、移住志望度低めの方が多いこと」が気になりそれが課題でした。でも嬉しいことにここ数年、「一度行ってみて自分が本当に住めるかどうかを確かめたい。冬の体験もしてみたい」という熱心な問い合わせが増えてきたのです。

私たち担当者は人数も対応できる時間も限られています。安い滞在場所として、おためし暮らしを考えている人ではなくて、移住候補地の1つであっても興味をもって来てみたいという人と出会える機会を増やしたいです。

栗山をまず知ってもらうこと。次に問い合わせがあり、何度も何度もやり取りを繰り返しながら、実際に訪れ、住むことを決め、引っ越し。仕事や生活、地域との交流を深めてやっと定着できる。長い道のりに関わるのは責任重大なんですよ。

### 移住を考えている方に一言お願いします。

移住とは人生を左右するといってもいいほど、大きな決断です。でも、あまり気負わずに来てくれたらいいなとも思っています。移住のHPにはキラキラ輝く先輩移住者さんが紹介されがちですが、そういう人はほんの一握り。地元の会社に入って仕事をし、普通の暮らしをしている人のほうが多いのです。栗山町を知り、なんだか好きだと思ったらふらっと来てくれたら良いと思います。なんとかなるだろう、というくらいの心持ちの方が楽しめて長持ちするのではないかなと思っています。ご自身でハードルを上げることはやめてほしいですね。

そして、小さな町だからできることがあることを知ってもらいたい。自分がイベント主催者になるなんて都会ではありえないことが、栗山では割と簡単にできます。実際、私がそうで、仲間と一緒に年に数回ハンドメイドやものづくり体験会を開催しています。ちょっとした苦労はありますが楽しいのです。チャンスが多くて、少しぐらいのミスはみんな許してくれる、気軽に始められることが魅力です。

(2023年5月取材)

#### インタビュー後記

はっぴ法被を着てメガホン片手に「わが町が最高です!」と移住フェアで町の名前をアピールする人とは真逆の、穏やかな腰本さん。長く付き合える信頼できる先輩移住者って、こういう方なんだと実感しました。違ったニーズを持つ移住希望者に対応するには、細やかさが必要で、かつ町の今を伝えるために情報収集は欠かせない。移住コーディネーターという仕事は、難しくやりがいがある仕事なのに、その専門性の高さや希少価値に気づいていない方が多いのは問題だと強く思いました。

かとう けいこ (株)まちづくり観光デザインセンター代表

### 北海道栗山町移住CコシモトSNS



Instagram



Twitter



ブログ